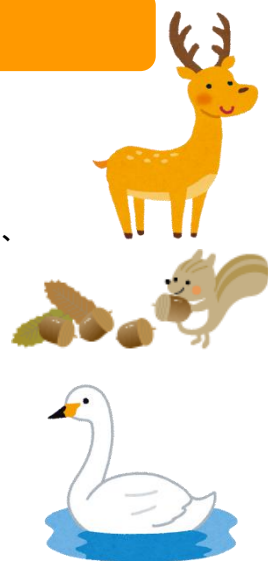


## □ トピック □ それぞれの冬支度

だんだんと秋も深まり、そろそろマフラーや毛布、こたつなど本格的な冬支度が必要になってきました。野外では動物も冬に備えて活動しています。

ツバメやカモ、ハクチョウなどの渡り鳥は冬をエサの多い暖かい地域で過ごすために、夏を過ごした地域より南の地域に渡りを行い、冬眠を行うコウモリやリス、クマなどは、皮下脂肪を蓄えたり、巣穴にエサを貯蔵したりします。シカやイノシシなどの冬眠をしない動物は、秋にエサをたくさん食べ、皮下脂肪を蓄え、エサの少ない冬を乗り越えます。そのため、山のドングリなどの木の实が不作、凶作の年は、時には人の住んでいるところまでエサを探しに下りてきてしまい、度々ニュースになっています。今年も全国的にドングリなどの木の实が不作のため、人里に動物が下りてきてしまうことが多くなると予想されていますので、ご注意ください。

一方で、市街地などに生息しているスズメやハト、ネズミ類などは冬眠をせず、屋根の隙間や換気口、建物の中などの風の当たらない暖かい場所に草や枝、布、紙などで営巣し、冬を過ごします。スズメやハトは暖かい日中にエサを探します。ネズミ類は建物の中でエサを探すこともありますので、食べ物はきちんとしまっておきましょう。



## □ お知らせ □ 冬の侵入者にご注意を



気温が低くなるこれからの時期は活発に活動する虫が少なくなるため、建物の改修工事や増改築、機械の運搬など、入り口の閉鎖頻度や外部からの持ち込みが多くなる作業・工事をするには、防虫の観点では良い時期です。虫の侵入が減少する一方で、この時期は冬の寒さをしのぐためにスズメやハト、ネズミ類の建物への侵入が増加していく時期でもあります。そのため、夏場に見かけなくても冬に突然ハトやネズミが現れることも少なくありません。ハトやネズミ類は冬でも繁殖を行うため、気が付いたときにはヒナや仔がいた、ということもあります。



このような事態を防ぐためには、ハトが営巣しそうな場所やネズミが侵入できる場所を塞いでしまいか寄せ付けないようにする必要があります。弊社では防鳥サービスとして忌避剤塗布や防鳥ネット、防鳥棘の設置、防鼠サービスとしてモニタリング調査や簡易閉塞工事、忌避剤処理なども行っておりますので、お困りごとやご相談がありましたら、お気軽にご連絡ください。

## □ 豆知識 □ 越冬の1種「冬眠」

動物の越冬方法の1つに「冬眠」という手段があります。冬眠とは哺乳類や鳥類が活動を停止し、体温を下げて冬を過ごすことを言います。日本で冬眠をする動物のほとんどがコウモリ類で、残りはヤマメやシマリス、アナグマ、ツキノワグマ、ヒグマです。

冬眠と聞くと「秋にたくさん脂肪を蓄え、冬に眠りにつき、春になると起きて巣穴から出てくる」ものだと思っている方もいらっしゃると思います。しかし、このような冬眠方法はクマにみられるもので、秋に体内に脂肪を蓄え、通常体温(約38℃)から3~4℃ほどだけ低下させ、排せつもせず冬を過ごします。そして冬眠中に出産と子育てをすることも知られています。

リスなどの哺乳小動物は、少ないエネルギーで長期間生存するために、心拍数を減少させ、体温も1~5℃くらいまで低下させ「仮死」状態で過ごします。そして、1~2週間に1回体温を上昇させ、巣穴に貯蔵した食べ物を食べたり、排せつをしたりします(中途覚醒)。

このようにそれぞれの冬眠方法で厳しい冬を乗り越えているのですね。また、冬眠を人の医療などに応用できないか研究が行われているので、結果が楽しみです。

